

Think Globally Act Locally (Vol.31)

ボランティアのすすめ

また新しい年が始まりました。今年、2005年の干支は「乙酉^{えと}」。

さまざまな場面において、鳥が飛ぶごとく大きくはばたいて、良い年にしていきましょう。

さて、昨年末から報道されている悲しいニュースに、スマトラ沖地震による津波被害があります。この大災害は、世界中を震撼させました。被害を受けた国々にとっては、経済的・社会的そして心理的にも大きな傷を残すこととなりました。

しかし、このような被災地には、汗を流す日本人ボランティアの姿もあります。阪神大震災から十年目を経た地震国日本、そのときの経験を生かし多くの場面で活躍している人々がいます。被災者支援の輪は、当たり前のように海を越えているのです。

活動体験記

切手の収集 於 新宿区区民センター 中2女子

活動内容 : 使用済みの切手(日本・海外)を封筒から消印をすべて残して切り取る。切手は重量で取引するので数は数えなくて良い。

学んだこと/感想: 業者に売ったお金で、
・「再生自転車を途上国の保健ボランティアに贈ろう」
・「アフガンの母と子の健康と命を守ろう」
・「途上国の地域生活改善」

の支援のためにやってみた。作業してみて色々な切手があることを知った。数人で集まって作業する中に、おばあさんもいて、普段は話す機会がないから、このとき色々なお話が聞けて楽しかった。切手が隅に貼っていると作業しにくかったので、これからは貼るときに気を付けようと思った。

- 活動内容 : 障害者福祉センターで行われた「障害者作品展」にて、作品の販売を行ったり、子供たちと遊んだりした。
- 学んだこと/感想 : 障害者の保護者の方の仕事が少しでも軽減できるようにと考え、またどうしたらお客さんが商品を欲しいと思うかを考えて工夫を凝らした。自分なりによく頑張ったと思う。子供たちが喜んでくれたのを見て嬉しくなった。相手が喜んでくれると、やりがいがあるものだ。

この紙上に載せている体験記は、皆さんが行っているうちのごく一部です。体験した人達は、担任の先生に「ボランティアのすすめ」の冊子を出してください。

まだボランティアの経験がない人がいたら・・・考えもつかないような、ふとしたところに、きっかけが転がっていることもあるのです。参考になるでしょう。

こんなボランティアもあるのです。

阪神大震災からもう10年。その震災から3ヶ月後の4月、3人の学生ボランティアがタイムカプセルを封印した。「被災者に夢をもってほしい」と、通りがかりの人に書いてもらった《10年後の私たちへ》という手紙が詰まっていた。当時の、小学生からお年寄りまで233通。10年後の今、書いた人達にその手紙を届ける作業を続けているという。

災害。幾多のきずなが絶たれる一方で、支援する人たちとの間には新しいきずなが生まれていくのです。物質的なものだけが助けになるわけではなく、むしろ人と人とのつながりが、心の傷をいやすことができるのです。

お 知 ら せ

白寿荘（特別養護老人ホーム）ボランティア 募集

- 日時 : 平成17年2月19日（土）
13時20分に学校を出発して全員で向かいます。
- 場所 : 白寿荘
- 交通手段 : 井の頭線駒場東大前駅下車、徒歩10分
- 内容 : 清掃、および入所されている方々との交流

参加を希望する生徒は、2月10日（木）までに広田（マ）先生まで